

ICTを活用した不登校児童・生徒の登校意欲の向上

～自尊感情の育成による不登校の改善～

不登校特例校、登校意欲、表現力、フォトポエム

八王子市立高尾山学園

〒193-0944
東京都八王子市館町1097番地30

<http://hachioji-school.ed.jp/swas/index.php?id=takao3g>

1. 研究の背景

(1)本校設立の目的

本校は、病気や経済的な理由を除き、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因や背景により、登校しないまたは登校したくてもできない児童・生徒のために平成16年4月に設立の小・中学校が併設された日本で唯一の不登校特例校である。

本校においては、児童・生徒の不登校状態に応じて、一人一人の心の安定を図るとともに、適切な学習支援と集団活動の中で人間関係の能力を養うことにより、生きることへの自信と社会的自立を獲得することをねらいとしている。そのため本校においては、学習指導要領に定められた内容を基本としながらも、児童・生徒の一人一人の実態に即し、柔軟な教育課程を小・中学部で編成して教育活動を推進しながら、明るく暖かく通いたくなる学校を目指している。

(2)教育機会確保法

平成28年12月22日付で「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が公布されました。この法律は、不登校の子供の支援を目的にしている。この法律の施行により、今後本校への期待と注目はさらに高まると予想している。

2. 研究の目的

(1)ICTを活用した表現意欲の育成

心に傷を負い、人前で間違えることを極端に恐れる傾向のある児童・生徒には、伝えたいという思いを、丁寧に育てていくことが大切である。そのために、タブレットPCで写真や動画を撮影し、ためていくことから取り組んでいきたい。1年間、取りためたものを振り返ることにより、季節の移り変わりに気づき、やがては自分の成長や変容に気づくことができるようになることを期待している。その気づきこそが、表現意欲の大切な種になると考えている。

(2)タブレットPCを利用したドリル学習による基礎学力の定着

不登校により授業に参加していない時期や期間は、児童・生徒により異なる。そのため、未学習の単元や分野は一人一人まちまちで、学力差は地域の学校より大きい。また、理解に時間がかかったり、理解の仕方が独特であったりするなど、本校児童・生徒は個性的な学習のスタイルをもっている。こうした実態に応じ、

基礎学力を定着させるためには、タブレットPCを利用したドリル学習が効果を発揮する。そして、登校の不安定な児童・生徒に対し、学習機会確保に力を発揮する。つまり、この取組みは、習得目標値未満の児童・生徒への学習指導のモデルとなるのである。

3. 研究の経過

時期	取組み内容	評価のための記録
4月4日	I C T研修 *書画カメラの活用 他	アンケート
4月5日	学園理解研修 *不登校特例校の使命	参加者のコメント
4月27日	研究者・他校のアドバイス *人との関わりの中で、学ぶ楽しさを味わう体験をさせてはどうかとのアドバイスを頂く。不登校で自信を失い、学習意欲も低下している子どもたちに、好きなことを追求し、教師や同年代の子どもたちと一緒に「学ぶと楽しい」と思う活動をたくさん体験させる事に研究の重点を置くこととした。	研究者・他校のコメント
4～6月	生活指導部による校内ルールの見直し	会議録
5月	ペッパー君との交流 登校支援教室通級者、小学部児童、中学部生徒希望者対象	観察記録写真
6～11月	3Dプリンターの活用 美術部・パソコン講座の児童・生徒	作品 つぶやき
10月4日	指導案検討	指導案
10月25日	訪問アドバイス 研究授業「俳句」4・5年児童対象 *アドバイザーより「フォトポエム」「フューチャークラスルーム」を紹介される。	記録写真 参加者のコメント
1月27日	授業公開 登校支援教室通級者、小学部児童対象 ライフプランニング授業	参加者のコメント (保護者)
2月7日	研究授業 「フォトポエム」 4・5年生対象	作品
2月21日	研修のまとめ、次年度の計画	計画書

4. 代表的な実践

(1)俳句

(1)目的 言葉をよりすぐって俳句を作ろう・「日常を十七音で」

(2)使用した機器・アプリ・機能 モニター、iPad

(3)指導の実際

①教師が提示した数枚の写真を見て、秋の言葉を見つける。

②写真を1枚選び、さらに秋の言葉を見つける。

③言葉をつなぎ、俳句を作る。

④作った俳句を発表し合う。



(4) 成果 児童の作品より

- ・街道を 黄色で彩る いちようかな
 - ・秋の日で 草木が育ち きれいだな
 - ・コスモスが オレンジきいろ きれいだな
 - ・銀杏を ふんでしまった どうしよう
- *季語を使い、5・7・5のリズムで秋の俳句を詠んだ。

(5)課題

登校が安定せず、4月から季節を探し、写真に記録していくことができていなかった。そのため、ネットから教師が「秋らしい」「いい写真だな」と感じたものを児童に提示したため、感動が薄い。俳句にしたい1枚を児童が選べていない点が課題である。4月から季節の写真を撮影し、児童自身が撮影した思いのこもった写真を使いたかった。せめて、学校の周辺の写真を教師が撮影し、示すべきであった。

☆訪問アドバイザーの金沢星陵大学の佐藤幸恵先生からフォトポエムの取組みをご紹介いただく。2月にフォトポエムに挑戦した。

(2)フォトポエム

(1)目的 「1枚の写真から」写真に言葉を添えて、フォトポエムを創る。

(2)使用した機器・アプリ・機能

iPad、モニター

(3)指導の実際

①卒業する6年生に思い出の「アルバム」を贈ることを決める。

②6年生の様子や4・5年生との関わりを撮影する。

③撮影した写真を選び、言葉を添える。

④作品を集め、「アルバム」を作り、卒業生を送る会でプレゼントする。

(4)成果 アプリの操作に慣れた。

(5)課題

写真の数が少ない。そのために、表現意欲を刺激する作品に児童が出会えていない。そして、予想を超えて、児童がiPadの撮影機能に慣れていない。身の周りの見慣れた風景を写真で切り取ることで、見方が変わり、そこに驚きや発見があるからポエジーが生まれる。記念写真は解説や思い出を書き加えることができて、ポエムを書くことはできない。



☆この他にも、以下のような実践を行った。

(3) 3Dプリンター

(1)目的 3Dプリンターの技術を知り、作品を作る。

(2)使用した機器・アプリ・機能

3Dプリンター

(3)指導の実際 美術部の部活動とパソコン講座で取り組んだ。

(4) 成果



(5)課題

教育課程に位置づけ、本校の特色ある教育活動としていく。

3Dプリンターで何を何のために作らせるのかを検討していく。その際、先進校の取組みに学ぶことが大切だと考える。

(例) 技術・家庭科 手提げカバンの制作：ボタンをデザインする。デザインしたボタンを3Dプリンターで作り、自作の手提げカバンにつける。

(4) ライフプランニング授業（ソニー生命による出前授業）

(1)目的

ライフプランニングを体験し、将来について考え、登校意欲を高める。

(2)使用した機器・アプリ・機能

モニター、PC

(3)指導の実際

①銀行員、介護士、教師、ユーチューバーに扮した授業者から、仕事を選んだ理由、なるために努力したこと、仕事をしていて楽しいこと・苦勞していること等を聞く。



②4つの仕事から1つを選び、グループに分かれライフプランニングを体験する。

- ・家は賃貸にするのか、マンション、戸建てを購入するのかを選択する。
- ・車は購入するのか。するとしたら、軽自動車か、国産車か、それとも外車か。
- ・旅行は年何回行くのか。国内旅行か、海外旅行か。

③選んだ職業の平均年収とそれぞれの選択結果を見ながら、ソニー生命のライフプランナーのアドバイスを聞く。

(4)成果 定職につくこと、まじめに働くことの大切さを学んだ。

(5)課題

授業では初めて会う方とも普通に接し、選択結果に一喜一憂し、いろいろな気付きをしていた子どもたちではあるが、翌日以降の登校意欲の向上には顕著な影響はみられない。不登校児童の抱える課題の根深さを再認識した。

(5)アプリを活用したドリル学習

(1)目的 ドリル学習による基礎学力の向上

(2)使用した機器・アプリ・機能 iPad、

- ・漢字忍者(小1～小6までの漢字 書きの練習)
- ・漢検トレーニング(6級(5年)レベル～2級までの漢字)
- ・漢検9・8・7級 等

(3)指導の実際 国語の授業では、始まりに必ず漢字練習に取り組みさせた。

(4)成果
国語の授業に参加している児童には、学習記録が残り、達成感を味わい、自信をつけることもできた。

(5)課題

- ・登校できない児童、授業に参加できない児童への対応。今後、iPadの教室外への持ち出し、家への持ち帰り等を検討する。
- ・八王子市の条例で、教室からネットにつなげることができない。そのため利用できるアプリが限られてしまう。また、ダウンロードの申請をしなければならず、手間と時間がかかる。



5. 研究の成果

(1)学校評価

今年度からICT活用に関する項目を学校評価に取り入れた。7月に1回目、12月に2回目の学校評価アンケートを実施。次のような変化が見られた。

設問「学園は授業において、説明、板書、発問、視聴覚機器（ICT機器）の活用などの工夫に取り組んでいる。」

児童・生徒アンケート

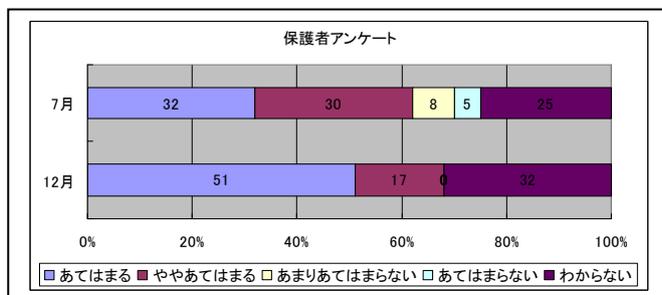
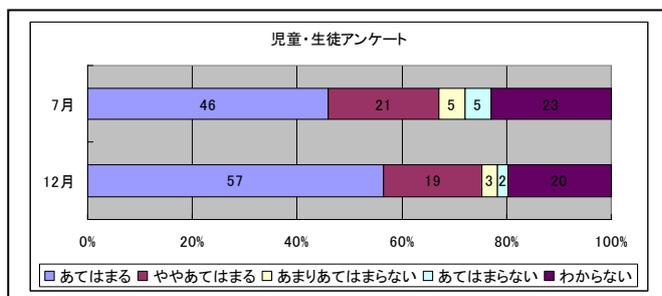
5ヶ月の間であったが、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童・生徒が増加し、12月には合計で76%になった。

保護者アンケート

児童・生徒アンケート同様、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者が増加している。さらに、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した保護者が12月には0%になった。

これは、①iPadを購入し、ドリル学習に常時取り組んできたこと ②「俳句」「フォトポエム」と2回の研究授業に取り組んだことが良い影響を与えていると言える。

さらに、ライフプランニング授業を保護者に公開した後にアンケートを実施していたら、保護者の評価はさらに良かっただろう。



(2) 登校率・授業参加率

登校率はほぼ 70%を達成できた。一方、授業参加率は約 50%で、目標の 70%には及ばなかった。しかし、ライブランニング授業では 64.7%、ペッパー君との交流授業に関しては 69.2%であった。授業に参加して良かった、楽しかったという経験を丁寧に積み重ねていくことで、授業参加率の向上は可能になるとの手応えを感じることはできた。

(3) 4・5年児童のICT活用機会の増加

4・5年児童には、一人に一台 iPad を貸与することができた。6年生教室にはモニターを常設し、NHK フォースクール等の活用が日常的に行われている。また、PC室の活用も多い。

6. 今後の課題・展望

(1) 課題

- ・ 中学部での ICT 機器の活用
- ・ 小学部では調べ学習やアルバム作り、林間学校や校外学習、遠足のしおり作りが PC の主な活用方法である。今後は、書画カメラの活用による説明、発表にも取り組んで行く。

(2) 展望

平成 30 年度パナソニック教育財団特別研究指定校に選出いただいた。本研究を継続、発展させ、不登校特例校のフラッグシップを目指す。

7. おわりに

本研究は始まったばかりである。振り返れば、想定外の事態に右往左往しながら手探りで進んだ 1 年であった。iPad を購入したが、ネットワークにつなぐことができず、カメラ機能と無料アプリの活用しかできず、当初の計画を大幅に変更しなければならなかった。そして、不登校を経験した児童・生徒の登校意欲・学習意欲を向上させることは、実に難しい。教師だけではとても解決仕切れない。保護者との協力はもちろん、地域や外部企業との協働により、社会全体で不登校児童・生徒を育てていく矜持が必要だと痛感した 1 年であった。幸いなことに、平成 30・31 年度の特別研究指定校に選出いただいた。今後、研究を継続し、教師一人一人の ICT 活用能力の向上をきっかけに、授業改善、授業力向上に取り組んでいく所存である。

最後になりましたが、金沢青陵大学の佐藤幸恵先生には、本校の実態を踏まえた上で、今後の研究の方向性を明示していただき、30 年度特別研究指定校への挑戦を後押ししていただきました。佐藤先生の暖かく、先を見越したご助言とこのような研究の機会をつくってくださったパナソニック教育財団に、心より感謝申し上げます。

8. 参考文献

- ・「教育の情報化に関する手引き」 平成 22 年 10 月発行
- ・「ワークショップ型教員研修 はじめの一步」
村川雅弘著 教育開発研究所 2016 年 12 月 15 日発行
- ・「学校管理職が進める教員組織づくりー教師が育ち、子どもが伸びる 校長のリーダーシップ」河村茂雄著
2017 年 7 月 10 日発行
- ・『『カリマネ』で学校はここまで変わる！続・学びを起こす授業改革』
村川雅弘・野口徹・田村知子・西留安雄著 ぎょうせい 平成 29 年 1 月 20 日 発行